

## 2 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

※ 「1 自己評価及び外部評価結果」を評価機関から受領した時点で、3「サービス評価の実施と活用状況(振り返り)」と併せて作成します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	6	(身体拘束をしないケアの実践) 職員が常に見守ることで玄関に鍵をかけず自由に過ごせるケアを実践しているが、入居者単独で外へ出てしまう危険性がないとは言えない。場所の理解が困難になっている入居者であっても、より安全に暮らせるような工夫が必要である。	これまでと同様に入居者の見守りや行動の把握をしっかりと行うとともに、玄関周辺へセンサー等を新たに配置し、所在不明となるような事故を防止できるようにする。	入居者の行動を的確に把握できるようなセンサー機器を選定、購入し玄関周辺等へ設置する。また、その運用方法について職員間で協議し、過剰な行動監視や行動抑制につながらないようにする。	6ヶ月
2	17	(初期対応の見極めと支援) 入居申し込みの相談者によっては、当グループホーム以外の事業所情報を必要とする場合もあるが、情報不足のため十分に対応できないと感ずることがある。	入居申し込みの相談者に対して、各種介護サービスの情報や、市内にあるグループホームの情報を必要に応じて提供し、適切なサービスや事業所へつなげる。	各種介護サービス事業所のパンフレットや名簿一覧等を取り寄せ、相談者があれば、いつでも活用できるようにファイリングする。	3ヶ月
3	33	(急変や事故発生時の備え) 咀嚼機能や嚥下機能が低下することで、食べ物による窒息事故が発生する危険性がある。窒息時の応急処置や対応について知識として知っているだけでなく、実際の場面において対処できる力をつける必要がある。	食べ物による窒息事故が発生した場合、迅速かつ的確に応急処置を行えるようにする。	窒息時の応急処置について、座学だけではなく実技も含めた職員研修を開催する。	6ヶ月
4	33	(急変や事故発生時の備え) 体調急変時の連絡体制・方法についてマニュアルを備えているが、実際の場面において対処できる力をつける必要がある。	体調が急変した場合、併設施設の看護師や関係医療機関等と連携し、迅速かつ的確に対応することができる。	体調急変時の連絡体制・方法について、座学だけではなく訓練も含めた職員研修を開催する。	6ヶ月
5	40	(栄養摂取や水分確保の支援) 必要な水分量を確保できるよう食事以外に水分補給の時間を設けているが、職員の促しだけでは十分に摂取できない入居者もいる。	無理強いせず、入居者自身が飲みたいと思えるように支援し、必要な水分量を確保できるようにする。	その時々のお気分で入居者自身が望むもの選べるよう、お茶やコーヒー、牛乳だけではなく、ジュース等様々な飲み物を常にそろえておく。	3ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。なお、挿入した際は、印字状態を必ず確認して下さい。